

高橋余一の「生活絵巻」



18 薬売り

昭和40年ごろまで、行商が物を売り歩く光景が見られました。「生活絵巻」には、製薬会社の薬売りが行商をする様子が描かれています。軍服のような服装に、手風琴を奏しながら行商の歌を歌い、薬の効き目を唱え、売り歩くというものでした。珍しい風貌と独特な節回しの歌声に引かれた子どもたちが、ついて回ることがありました。

また家には置き薬があり、適当な時期に富山や滋賀などから、薬の入っている柳行李を背負った行商が訪ねてきて、使った分の精算をし、補充をしました。

(上の絵)

薬売り

「オイチニ／＼オイ
チニの薬はよく効く
ぞ」と村を廻る所謂
オイチニの薬屋さ

金筋

薬箱 たしか一葉
館と書いてあった

薬の宣伝のじう

手風琴